

高等部 職業科 学習指導案

日 時 令和6年6月27日(木)

場 所 希望の棟

対 象 高等部3年生生徒

指導者 T1岡 智亜紀 T2 蒲地 誠
(本時) T1岡 T2吉田 T2鐘ヶ江
T2大島 T3森高

1. 単元名「前期就業・施設体験事後学習」

2. 単元について

【生徒観】

本研究授業の対象学級である高等部3年生は、男子3名、女子1名の計4名の学級である。知的障害の程度を含めた実態は幅広く、卒業後の進路先予定も一般企業での就職や就労継続支援、生活介護でのサービス利用と様々である。生徒たちは高等部1年生から、5回の就業・施設体験(校内実習を含む)に取り組んできており、自身の卒業後の進路や生活への見通しをもち始めている。

これまでの就業・施設体験では、真剣に仕事や活動に取り組んできた。その中で、職場や施設の方から褒められたり認められたりしたことで、少しずつ自信がもてるようになってきた。そして体験中に指摘されたことについて受け止めたことを、学校生活で改善しようとする姿も見られるようになってきている。また、就業・施設体験の壮行会や報告会でも、体験の目標や成果、課題について考え、発表することができている。併せて、学級での話し合い活動でも、積極的に自分の意見を言ったり、他者の意見を受け入れたりすることができるようになってきた。特に発表する場面では、伝える相手のことを考えた話し方やジェスチャー、表情を工夫して伝える活動によって充実感・達成感を得ており、自信につながった生徒も多くいる。一方で、まだ経験がなく見通しがもてなかったり、不安なことがあったりすると、自分の考えを表出することが難しくなる生徒がいる。さらに、職場や施設の方に指摘された全ての事項について、自分事として受け止めることはまだ難しい。

学部生徒全体の実態としては、学校での学びについて「知識・技能」としては身につけているが、他の生活場面で活用する姿が見られないという課題がある。

【単元観】

本校高等部では、生徒たちが経験の中で培ってきたことを大切にしつつ、生徒が自身の課題を見出し、改善に向けて主体的に取り組む力を育成することが、将来の豊かな生活に繋がると考えている。学習指導要領に示された「職業科」の目標には、「職業など卒業後の進路に関する実践的、体験的な学習活動を通して～中略～将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設

定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。」と記されている。就業・施設体験の事後学習では、体験先からの評価や自己評価をもとに、就労や施設利用に必要な自分の課題を自覚できるようにし、今後の学校生活や家庭生活において解決に向けて取り組むことができるように指導することが重要である。併せて、自分が成長した点やこれからの夢や目標を考え、将来の生活への思いを具体化することも目的の1つである。

本単元は、今回の就業・施設体験についての報告会に加えて、3年間の進路に関する学習を振り返って自分の成果や課題を整理し、そのことを後輩に対して、自身の経験を踏まえて伝えたり、質問に答えたりする活動に取り組む。また、将来に向けて自分をよりよく成長させる具体的方策についても考えを深めることができるよう、1年生から3年生の縦割りのグループを編成し、グループワークとして「高等部で身に付けたい力」について話し合う。高等部3年間の学び積み重ねを土台とし、自己理解に基づいて、将来の豊かな生活を実現しようとする生徒の育成を目指し、本単元を設定した。

【指導観】

まず、今回の就業・施設体験の振り返りにおいては、自分自身で課題を見つけたり再確認したりすることができるよう、自分が就業施設体験で実際に働いたり活動したりしている動画を見る活動を取り入れる。教師は生徒が課題に気づいたら共感したり、気付くことが難しいときには問いかけをしたりして支援する。また、1年生からこれまでの就業体験の経験を整理する際は、これまでの体験日誌や写真や動画、評価表などを活用して、体験先から褒められたことや頑張ったこと、体験中に指摘された課題などを意識できるようにしたい。生徒の実態に応じて、評価をグラフ化するなど視覚的に提示する手立てをとっていききたい。これらの振り返りを踏まえて、3年生が自己理解を深め自己有用感をもつことができるよう、自身の経験に基づいた成果や課題やこれからの目標を発表する活動を設定する。

さらに生徒たちが自分事として課題を受け止めることができるように、後輩たちと話をするグループワークの時間を設定する。グループワークでは、仕事・生活・余暇の3つの視点で「高等部で身に付けたい力」についてグループで話し合い、一番大事だと思うものを決めていく。まず付箋に自分の意見を書いて全員が自分の意見を表出できるようにし、出された意見に「いいね」シールを貼るなど、グループワークが活発化する支援を行っていききたい。発語や書字が難しい生徒に対しては、写真やイラストを準備し生徒が選択して自分の思いを表出できるようにしたい。

3年生については、自分の考えを伝え、1、2年生の意見を聞いて考えを深めることや、自分の課題を再認識することを期待したい。また、高等部全体としてみんなで課題を解決してこうとする雰囲気を作っていきたいと考える。最後に、本単元で学んだことが、生徒の今後の学校生活や卒業後の社会生活で生かされるように今後も作業学習と関連させて、継続的な指導に努めたい。

3. 単元の目標（学部段階、ア、イ、ウ）

ア：知識及び技能 イ：思考力、判断力、表現力 ウ：学びに向かう力・人間性等

※本単元は職業科授業だが、生徒の実態に合わせて中学部職業・家庭科（職業分野）の目標も設定する。

- (1) 就業・施設体験や事後学習での話し合い活動などを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。（高1ーア）
- (2) 就業・施設体験を通して、学校卒業後の生活について知ることができる。（中1ーア）
- (3) 就業・施設体験を踏まえて、自分の成果や課題について考え、表現することができる。（高1ーイ）
- (4) 就業・施設体験で経験したことと将来の生活の関連に気づき、それを表現することができる。（中1ーイ）
- (5) 適切な自己理解をもとに、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養うことができる。（高1ーウ）
- (6) 就業・施設体験での経験を通して、将来の生活を楽しみにすることができる。（中1ーウ）

4. 単元の評価規準（学部段階、ア、イ、ウ）

ア：知識・技能 イ：思考・判断・表現 ウ：主体的に学習に取り組む態度

- (1) 就業・施設体験や事後学習での話し合い活動などを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解している。（高1ーア）
- (2) 就業・施設体験を通して、学校卒業後の生活について知っている。（中1ーア）
- (3) 就業・施設体験を踏まえて、自分の成果や課題について考え、表現している。（高1ーイ）
- (4) 就業・施設体験で経験したことと将来の生活の関連に気付いたことを表現している。（中1ーイ）
- (5) 正しい自己理解をもとに、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとしている。（高1ーウ）
- (6) 就業・施設体験での経験を通して、将来の生活を楽しみにしている。（中1ーウ）

5. 単元の計画（全 14 時間）

次	時	日時	学習内容	指導内容（学習指導要領）
1	1 ～ 3	6/24 6/24	<ul style="list-style-type: none"> ○全体事後学習 ・事後学習と報告会の学習計画を知る。 ・事後学習の目的と目標を知る。 ・事前学習の内容を取り組むことができたかを確認する。 ・写真や動画で体験を振り返り、お礼の手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等の育成のうち、作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。（職高1） ○職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。（職中1） ○職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。（職高1） ○職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。（職中1） ○職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。（職高2）
2	4 ～ 9	6/25 6/26 6/27 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワーク準備 ・就業・施設体験の振り替えり ・自身の強みと苦手とすることを整理する。 ・自分の成果や課題を踏まえて、1・2年生に伝えたいことを考える。 ○成果や課題の発表 ○高等部段階で身に付けた力を考える。(グループワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。（職高1） ○職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。（職中1） ○作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。（職高1） ○職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。（職中1） ○職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。（職高1） ○職業生活に必要な健康管理について気付くこと。（職中1） ○職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。（職高1） ○実際の学習活動を通して、職業や進路に関わることについて関心をもつこと。（職中1） ○産業現場等における実習での自己の成長と課題について考えたことを表現すること。（職高1） ○実際の学習活動を通して、職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。（職中1）

3	10 ～ 14	6/28	○報告会 ・準備 ・報告会	○コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことや自分の考えを表現すること。(職中2) ○コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝える。(職中1) ○産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。(職高1) ○実際的な学習活動を通して、職業や職業生活、進路に関わることについて、気づき、他者に伝えること。(職中1)
---	---------------	------	---------------------	--

6. 単元の個人目標

生徒	個人目標
A	①学校卒業後の生活についてイメージすることができる。(中1ーア)
	②就業・施設体験で経験したことと将来の生活の関連に気づき、それを表現することができる。(中1ーイ)
	③就業・施設体験での経験を通して、将来の生活を楽しみにすることができる。(中1ーウ)
B	①就業・施設体験の振り返りやグループワークを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1ーア)
	②就業・施設体験の振り返りで自分の成果や課題について考え、グループワークで自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞いて考えを広げたりすることができる。(高1ーイ)
	③将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活しようとする態度を養う。(高1ーウ)
C	①就業・施設体験の振り返りやグループワークを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1ーア)
	②就業・施設体験の振り返りやグループワークを踏まえて、自分の成果や課題について考え表現したり、他者の意見を受け止めたりすることができる。(高1ーイ)
	③自己の理解に努め、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養う。(高1ーウ)
D	①就業・施設体験の振り返りやグループワークを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1ーア)
	②就業・施設体験の振り返りで自分の成果や課題について考え、グループワークで自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて、自分事として捉えたりすることができる。(高1ーイ)
	③正しい自己理解をもとに、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養う。(高1ーウ) (高1ーウ)

7. 本時の目標

- 高等部で身につけたい力についてグループで意見を出し合い、自分事として受け止めることができる。(中1高1ーイ)
- 3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表することができる。(中1高1ーイ)

8. 本時の評価規準

- 高等部で身に着けたい力について自分の意見を述べたり、他者の意見を受け入れたりしている。(高1ーイ)
- 高等部で身に付けたい力について、選んでいる。(中1ーイ)
- 3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表している。(高1ーイ)
- 3年間の就業・施設体験での経験や課題について表現している。(中1ーイ)

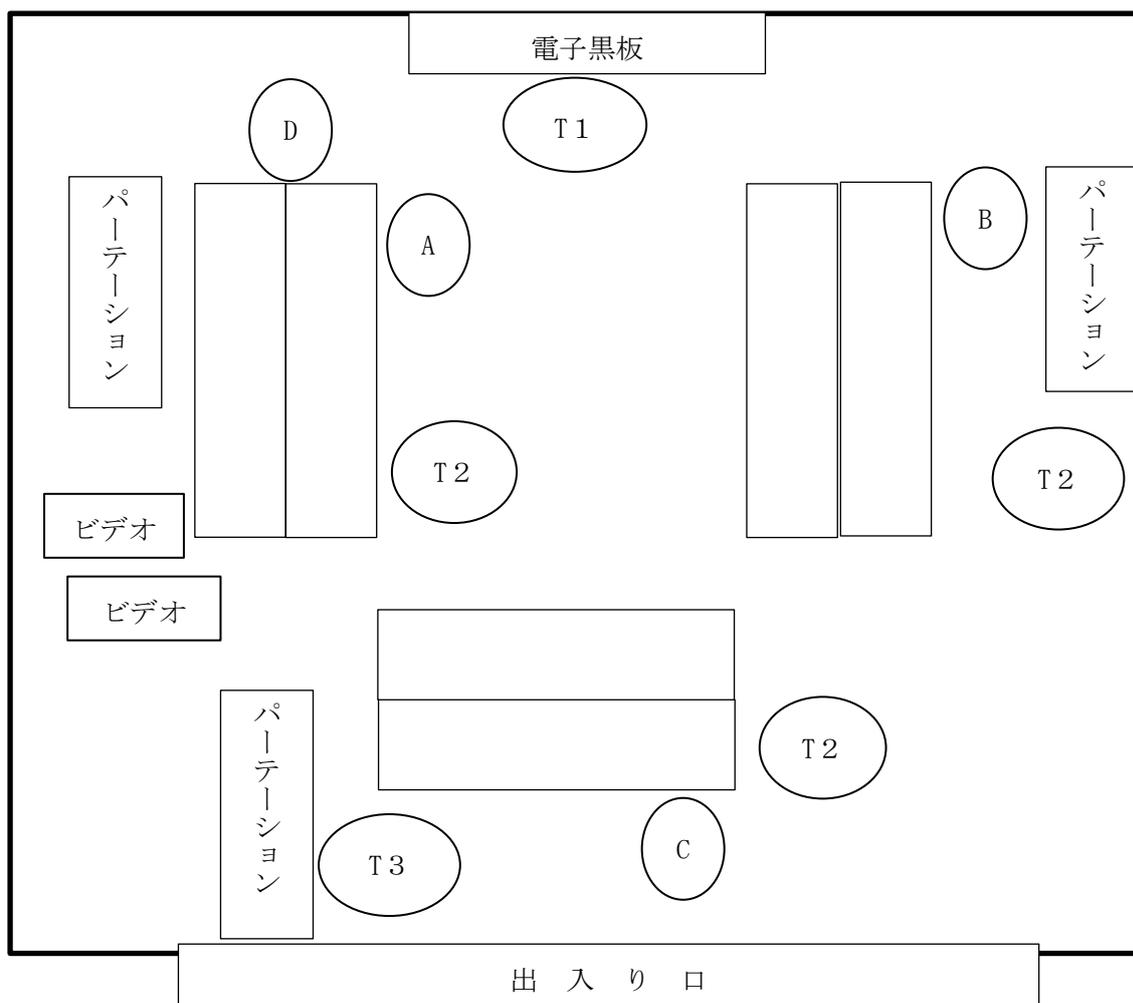
9. 本時の個人目標 (学部段階、ア、イ、ウ)

生徒	個人目標
A	①グループワークで友達の意見を聞いたり、高等部で付けたい力を選ぶことができる。(中1ーイ)
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について表現することができる。(中1ーイ)
B	①グループで意見を出し合い、友達の意見を聞いて自分事として受け止めることができる。(高1ーイ)
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表することができる。(高1ーイ)
C	①グループで意見を出し合い、自分の考えを伝え友達の意見も受けとめることができる。(高1ーイ)
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表する。(高1ーイ)
D	①グループで意見を出し合う中で、友達の意見を自分の意見と照らし合わせて自分にとっても必要なことに気付く。(高1ーイ)
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表する。(高1ーイ)

10. 本時の展開

時間	活動内容	指導・支援
10:30	1 はじめのあいさつをする。	1 号令をかける生徒を示し、活気のあるあいさつができるように促す。
10:31	2 前時までの振り返りをする。 ・各学年でおこなった事後学習について	2 就業・施設体験事後学習の内容について生徒に発問し、振り返りつつ、その内容を提示する。
10:35	3 3年生が一人ずつ、これまでの就業・施設体験での成果や課題を発表する。 ・質疑応答	3 写真や動画を活用し、視覚的にイメージしやすいようにする。3年生は、前時までにまとめたワークシートを準備し、発表の際に活用できるようにする。
10:50	4 高等部段階で身に付けたい力（仕事・生活・余暇）についてグループで話し合い、模造紙にまとめる。 ・一人ずつ付箋紙に「仕事」「生活」「余暇」の必要な力を書く。 ・書いたものを発表しながら、カテゴリーに分けて示す。 ・カテゴリー分けをしたものを分類する。 ・意見の共有、お互いの良さを認め合うためにいいねシールを貼る。 —休憩—	4 生徒一人一人の考えを付箋紙に書き、発表しながら、模造紙に貼っていくことで全員の考えを引き出すようにする。グループの教師がグループワークでの意見交換を支援し、生徒個々の考えや思いを共有できるようにする。 必要に応じて、イラストや写真を提示する。 いいねシールを貼る意味や使い方について説明する。 T1、T2が個別に支援する。
11:20	・「仕事」「生活」「余暇」のそれぞれで一番大事にしたいことを決める。理由まで考える。	・必要に応じて理由を引き出すための言葉かけをする。
11:25	・班ごとにパーテーションに貼る。	
11:55	5 話し合った内容を発表する。 代表で3年生が発表する。	5 必要に応じて発表原稿を準備する。
12:05	6 先生の話聞く。 ・3つの班のまとめを見て、気づきを発表する。	6 各グループでまとめられた内容について整理して、伝える。
12:15	7 おわりのあいさつをする。 ・片付けをする。（机、マジック等） ・模造紙を教室前廊下に掲示する。	7 号令をかける生徒を示し、活気のあるあいさつができるように促す。

11. 場の設定



12. 本時の個人目標の評価（学部段階、ア、イ、ウ）

生徒	個人目標	評価	生徒の姿、次回に向けて
A	①グループワークで友達の意見を聞いた り、高等部で付けたい力を選んだりする ことができる。(中1-イ)	○	グループに参加し、友達の意見に因んだ2～3枚 の絵カードから1枚を選び、自分が身に付けたい 力について教師と一緒に発表することができた。 今後の課題として、より生徒の実態に即した目標 を設定していきたい。
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題 について表現することができる。(中1- イ)	○	パワーポイントを見ながら、過去の就業体験や今 回の就業体験での成果や課題について単語で表現 することができた。

B	①グループで意見を出し合い、友達の意見を聞いて自分事として受け止めることができる。(高1-イ)	○	仕事面は、コミュニケーションについて自分の課題から出すことができた。グループの結論をどうするか尋ねると、意見を聞いて、「やはり体力も大切かも…」と意見を見て、考えを広げていた。
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表することができる。(高1-イ)	○	それぞれの体験先に行く前の当時の気持ちや課題にあげた理由を添えて、発表することができた。
C	①グループで意見を出し合い、自分の考えを伝え友達の意見も受けとめることができる。(高1-イ)	○	自分の意見を出した後、後輩の話を聞き、「そうだね」「それもあるね」など言いながら意見を受け止めることができた。
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表する。(高1-イ)	○	自分の経験したことを思い出しながら、過去の気持ちやそのときの成果・課題の内容も整理し、後輩の前で発表することができた。
D	①グループで意見を出し合う中で、友達の意見を自分の意見と照らし合わせて自分にとって必要なことに気付くことができる。(高1-イ)	○	友達の意見を聞いたり、出てきた意見を同じものと違うものに分けたりするときに、「大事だ。」の言葉が出てくるなど自分に落とし込んで聞いている様子があった。
	②3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表する。(高1-イ)	○	3年間の就業・施設体験での成果や課題について整理したことを発表することができた。

評価は○と△の2段階評価

13. 授業改善について

3年生は、これまで学級での話し合い活動の経験などもあって、自分の意見を伝え、相手の意見を受け止めることができていた。友達の意見を聞いて「大事」と言うなど、自分の考えを広げることができていた。しかし、1・2年生は自分なりに考えや思いをもっているようではあったが、それを言葉にするには、もっと支援と時間が必要だったと考える。グループの意見をまとめることは、3年生なりに共通意見を導き出そうと工夫していたが、難しい様子も見られた。教師も支援しながら、さらに丁寧に行う必要がある。

14. 単元の個人目標の評価 (各教科等、学部段階、ア、イ、ウ)

生徒	個人目標	評価	生徒の姿、今後に向けて
A	①学校卒業後の生活についてイメージすることができる。(中1-ア)	△	なんとなく卒業したら事業所に行くと思ったようだが、まだはっきりと卒業後のイメージはついていないようである。今後、継続的に、スムーズに安心して移行できるように指導していきたい。
	②就業・施設体験で経験したことと将来の生活の関連に気付き、それを表現することができる。(中1-イ)	○	これまでに体験した事業所の写真や動画を見ながら、「木の香園に行く」と言葉で表現することができた。
	③就業・施設体験での経験を通して、将来の生活を楽しみにする。(中1-ウ)	○	「木の香園に行く」と何度も言葉で表現し、木の香園での活動を思い出し言葉にしていた。楽しみにしているものとする。
B	①就業・施設体験の振り返りやグループワークを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1-ア)	○	体験をして感じたことやグループワークで出た意見を自分事として捉え、将来の生活に必要な知識・技能について理解できた。
	②就業・施設体験の振り返りで自分の成果や課題について考え、グループワークで自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞いて考えを広げたりすることができる。(高1-イ)	○	写真や動画、評価表を見て、自分の成果や課題を考え、書いたり、発表したりすることができた。 グループワークでも、友達一人一人の意見をよく聞く姿が見られた。
	③将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活しようとする態度を養う。(高1-ウ)	△	体験をした中で、自分の進路先希望を選択することができた。自分の課題を解決するための方法は考えることができたが、実践することはまだできていない。
C	①就業・施設体験や事後学習での話し合い活動などを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1-ア)	○	体験して感じたり、グループで出た意見を受け止めたりして、将来の生活に必要な知識や技能について理解できた。
	②就業・施設体験の振り返りやグループワークを踏まえて、自分の成果や課題について考え表現したり、他者の意見を受け止めたりすることができる。(高1-イ)	○	写真や動画、日誌、評価表を見て、自分の成果や課題考え、発表することができた。グループワークでは自分の考えと違う意見も受け止めて、グループの話し合いを進めることができた。

	③自己の理解に努め、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養う。(高1-U)	△	自分の得意なことや苦手なこと、ジョブマッチングについての自己理解は不十分である。課題解決の方法については考えることができたが、実践にはまだ結びついていない。
D	①就業・施設体験や事後学習での話し合い活動などを通して、将来の生活に必要な知識・技能について理解することができる。(高1-A)	○	グループワークで出た意見にも共感したり、体験をして感じたりして、将来の生活に必要な知識・技能を理解することができた。
	②就業・施設体験の振り返りで自分の成果や課題について考え、グループワークでは自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて、自分事として捉えたりすることができる。(高1-I)	○	写真や動画を客観的に見て、自分の成果や課題を考え、発表することができた。グループワークでは、友達の意見に対し、「それも大事」など、自分の考えと照らし合わせて考えることができた。
	③正しい自己理解をもとに、将来の進路について選択・決定しようとする意欲、習得した知識や技能を活用して生活を改善しようとする実践的な態度を養う。(高1-U)	△	自己理解については不十分であるが、進路は自分自身のことであることを意識できるようになり、選択できるようになった。課題解決に向けた実践はまだ不十分である。

評価は○と△の2段階評価